

専門学校ESPエンタテインメント福岡

| 授業科目名 | 一般教養Ⅱ | | 授業形態 / 必選 | 講義 | 必修 |
|--|--------------------|-------|-----------------------------|---|-----|
| | 学則別表上表記 | 一般教養Ⅱ | 年次 | 2年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 4単位 |
| 科目設置学科コース | ■音楽芸能スタッフ科Ⅱ部 PAコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 | | 該当 <input type="checkbox"/> | 非該当 <input checked="" type="checkbox"/> | |
| 担当講師 実務経歴 | | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| <p>①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、一般知識を学ぶ。 ②具体的に第一印象、あいさつ、身だしなみ、態度、表情、言葉遣い、ビジネス文書、来客対応、電話対応、仕事の進め方等の社会人としての心構えを習得する。 ③就職活動において、自己PRや立ち居振る舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。</p> | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <p>・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。 ・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることができる。 ・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。</p> | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|---|
| 【前期】 1～4回目 | ・自己分析と企業研究 ・就活準備の基本(履歴書作成・身だしなみ) |
| 【前期】 5～8回目 | ・Web 面接対策とSPI対策 ・面接練習 |
| 【前期】 9～12回目 | ・マナーの基本(あいさつ、身だしなみ、態度、表情、姿勢) |
| 【前期】 13～16回目 | ・コミュニケーション(聞き方・話し方、言葉遣い、グループディスカッション) ・敬語(敬語の使い分けと使い方) |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業内容に関わる知識や技能を問う。 |
| 【後期】 20～23回目 | ・後期の目標設定 ・感情のコントロール(アンガーマネジメント) |
| 【後期】 24～27回目 | ・電話対応とクレーム対応 ・名刺交換と席次 |
| 【後期】 28～31回目 | ・Eメールと手紙の書き方 ・ビジネス文書作成 |
| 【後期】 32～35回目 | ・社会人としての意識とマナー(会社の仕組み、仕事のすすめ方、コンプライアンスについて) ・これからの自分 |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業内容に関わる知識や技能を確認する。 |
| 評価方法 | S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 会社の仕組みを学び、仕事の基本を知ることからはこれから社会に出る皆さんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得していきましょう。 |
| 備考 | |

専門学校ESPエンタテインメント福岡

| | | | | | |
|--|---|-------|-------------|-------|-----|
| 授業科目名 | 音響・録音技術史Ⅱ | | 授業形態 / 必選 | 講義 | 必修 |
| | 学則別表上表記 | 音楽史Ⅱ | 年次 | 2年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 4単位 |
| 科目設置学科コース | ■音楽芸能スタッフ科Ⅱ部 PAコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | 福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。 上記の経験を活かし音響と録音機材における歴史の講義を行う。 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| 電話機の誕生や蓄音機の発明まで遡り、スピーカー、ミキシングコンソールやレコーディング機材などの音響・録音技術がどのような発展を遂げてきたか、また、レコード、カセット、MD、CD、デジタルオーディオプレイヤーやインターネット上のコンテンツなどの音楽メディアの変遷を学び、時代背景や技術の発達を習得する。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・電気音響工学の変遷を学び、今日使用されている機材への理解を深める。 ・流通している音楽メディアの変遷を学ぶ事で、普段聴いている音楽への知識を高めると同時に、今後も進化して行くであろう音楽メディアへ対応出来る教養を身につけ音響、録音機材の歴史、音楽メディアの変遷への教養を高める事で、現場で活かせる知識を養う。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | 授業概要の説明。 音響の成り立ち、PAについて。 |
| 【前期】 5～8回目 | MTRからDAWまでの変遷。 ダイナミックマイクロフォンについて。 |
| 【前期】 9～12回目 | コンデンサーマイクロフォンについて。 マイクロフォンの成り立ちについて。 |
| 【前期】 13～16回目 | 蓄音機についてレポートを作成。 ミキシングコンソールの変遷。 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期授業内容から抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身につけているかを問う。 |
| 【後期】 20～23回目 | 音楽メディアの変遷。 デジタル技術の発展について。 |
| 【後期】 24～27回目 | 1940年代～1960年代の音響、録音技術に関する講義。 |
| 【後期】 28～31回目 | 1970年代～1980年代の音響、録音技術に関する講義。 |
| 【後期】 32～35回目 | 1990年代から現在に至るまでの音響、録音技術に関する講義。 |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:後期授業内容より抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身につけているかを問う。 |
| 評価方法 | S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 現場で扱う機材の変遷を知る事で、各メーカーが出す機材の意図を垣間みる事が出来る様になるはずです。 そこを抑えておけば、今後新しい機材が出た際や、音響・録音の概念が時代とともに変化しても対応出来る知識が身につきます。 |
| 備考 | 講師作成のプリント資料を授業毎に配布。 |

専門学校ESPエンタテインメント福岡

| | | | | | |
|--|--|--------------|-------------|-------|-----|
| 授業科目名 | 音響知識Ⅱ | | 授業形態 / 必選 | 講義 | 選択 |
| | 学則別表上表記 | コンサートスタッフ知識Ⅱ | 年次 | 2年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 4単位 |
| 科目設置学科コース | ■音楽芸能スタッフ科Ⅱ部 PAコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | 福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| <p>①音響に関する専門用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する応用知識を学ぶ。</p> <p>②スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につける。</p> | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <p>・実際の現場では時間がなかったりなど、わからないことでも聞きづらい状況は多々あります。音響の基礎から応用までを学習し、実作業の中で実際に活かせる知識を身につけます。</p> <p>・音響に対する幅広い知識を身につけ、実務での予期せぬ自体にでも活かせる用に理解度を深めるのが到達目標です。</p> | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | 音響に関する電気知識・電気抵抗について。 |
| 【前期】 5～8回目 | 空間系・ダイナミクス系エフェクターについて。 |
| 【前期】 9～12回目 | デジタル技術・機器間の同期について。 |
| 【前期】 13～16回目 | デシベルや音圧について。 前期の復習。 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。 |
| 【後期】 20～23回目 | 1年次から2年次前期までの復習と補足① 最新のPA・レコーディングシステムについて① |
| 【後期】 24～27回目 | 1年次から2年次前期までの復習と補足② 最新のPA・レコーディングシステムについて② |
| 【後期】 28～31回目 | レポート作成① |
| 【後期】 32～35回目 | レポート作成② |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。 |
| 評価方法 | S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 音響に関する基本的なことから応用まで、実務で使用する知識を学習します。 |
| 備考 | 講師作成のプリント資料を授業毎に配布。 |

専門学校ESPエンタテインメント福岡

| | | | | | |
|--|--|-----------|-------------|-------|-----|
| 授業科目名 | 音響システムⅡ | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 選択 |
| | 学則別表上表記 | イクイップメントⅡ | 年次 | 2年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置学科コース | ■音楽芸能スタッフ科Ⅱ部 PAコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | 福岡のレコーディングスタジオにおいて約20年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| <p>①スピーカー、パワーアンプ、ミキシングコンソールや各種エフェクターをはじめ、その他周辺機器の安全かつ正しい取り扱いを学ぶ。 ②総合的に音響のシステム構造を理解する事で、オペレート技術の向上にも反映していく。</p> | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <p>・実技授業や実際の現場の際に、的確なセッティング・状況に応じた機材選びやマイキングなどがスムーズに行えるようになるよう学び、音響のシステムを色々な視点から仕組みを理解していく。 ・実際に音響機材に触れ、構造や用途・特徴などを学ぶ。</p> | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | マイク・D.I・スピーカーなどを分解し、構造・性質・特性を学ぶ。 |
| 【前期】 5～8回目 | ギターアンプ・ドラムセットなどのマイキングをより細かく学び、状況に応じたセッティングを学ぶ。 |
| 【前期】 9～12回目 | 疑似的にインイヤーマニターをセッティングし、スピーカーのみの場合・イヤモニのみの場合・両方の場合を聞き比べ、的確なチューニング・レベルの取り方を学ぶ。 |
| 【前期】 13～16回目 | ワイヤレスマイク・ワイヤレスイヤモニの周波数帯域を理解し状況に合わせたプランを学ぶ。 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:適切なマイキング・ワイヤレスの周波数帯域のプランができるように実技試験を実施し理解度を問う。 |
| 【後期】 20～23回目 | 前期おさらい～PA周りの電源・楽器周りの電源について学ぶ。 |
| 【後期】 24～27回目 | 小型スピーカー～大規模スピーカーの構造・設置方法・状況などを理解する。 |
| 【後期】 28～31回目 | 後期LIVE WEEKIに向けてのプランニング① |
| 【後期】 32～35回目 | 後期LIVE WEEKIに向けてのプランニング② |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:ライブホールの音響システムについて実技、筆記試験を行い理解度を問う。 |
| 評価方法 | S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 小規模～大規模なイベント、さまざまな状況に対応できるよう基本をしっかり学びます。実際の現場は基本の応用ですので臨機応変に対応できるようしっかり学習します。 |
| 備考 | 特になし。 |

専門学校ESPエンタテインメント福岡

| | | | | | |
|--|---|------------|-------------|-------|-------|
| 授業科目名 | サウンドアナライズⅡ | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 選択 |
| | 学則別表上表記 | サウンドアナライズⅡ | 年次 | 2年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置学科コース | ■音楽芸能スタッフ科Ⅱ部 PAコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 | | | 該当 ■ | 非該当 □ |
| 担当講師 実務経歴 | 福岡のライブハウスや音響会社に長年在籍の後、現在はフリーランスとして福岡を拠点とするアーティストや劇団の専属PAを担当する他、様々なイベントにおいてステージ進行の業務に従事。 上記の経験を活かし楽曲や音の分析に関する実技指導を行う。 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| チェストボイス、ミックスボイス、ヘッドボイスやファルセットなどの歌声、アコースティックギター、エレクトリックギター、ベース、ドラム及びキーボードなど様々な「音」を分析し、それぞれの性質及び特徴を理解するとともに音響エンジニアとして必要な応用知識を身につける。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・歌声の種類を理解する。 ・楽器の特性を理解し、シチュエーションによって使い分けられる音の違いを分析する。 ・DAWソフトを使用して、視覚的、聴覚的に理解度を深める。 ・それぞれの音の性質や特徴を理解することができる。 ・ジャンルやシチュエーションによって使い分けられる音のEQ処理技術を身につけることができる。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | 授業概要と年間スケジュールの説明。歌声に関する分析、解説。 |
| 【前期】 5～8回目 | アコースティックギターに関する音の分析、解説。 |
| 【前期】 9～12回目 | エレクトリックギターに関する音の分析、解説。 |
| 【前期】 13～16回目 | ベースギターに関する音の分析、解説。 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。 |
| 【後期】 20～23回目 | ドラムに関する音の分析、解説。 |
| 【後期】 24～27回目 | ドラムに関する音の分析、解説。 |
| 【後期】 28～31回目 | 鍵盤楽器に関する音の分析、解説。 |
| 【後期】 32～35回目 | その他の楽器に関する音の解説。 |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施。 |
| 評価方法 | S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 歌声や楽器の特性を理解することで、シチュエーションに適した音作りをすることができます。 |
| 備考 | 授業毎に講師作成の資料を配布。 |

専門学校ESPエンタテインメント福岡

| 授業科目名 | スタッフワークⅡ | | 授業形態 / 必選 | 演習 | 選択 |
|--|---|----------|-------------|-------|-----|
| | 学則別表上表記 | スタッフワークⅡ | 年次 | 2年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 4単位 |
| 科目設置学科コース | ■音楽芸能スタッフ科Ⅱ部 PAコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 | | 該当 ■ | 非該当 □ | |
| 担当講師 実務経歴 | 福岡のライブハウスや音響会社に長年在籍の後、現在はフリーランスとして福岡を拠点とするアーティストや劇団の専属PAを担当する他、様々なイベントにおいてステージ進行の業務に従事。 上記の経験を活かしPAにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| <p>①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、ステージセッティング、楽器調整、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのスタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。</p> | | | | | |
| <p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p> | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | 前期授業における内容について、イベント制作コースを中心に企画会議を行い、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。 |
| 【前期】 5～8回目 | 出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する①(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。 |
| 【前期】 9～12回目 | 出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する②(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。 |
| 【前期】 13～16回目 | 出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する③(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。 |
| 【後期】 20～23回目 | 後期授業における内容について、イベント制作コースを中心に企画会議を行い、それぞれの企画に対し、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。 |
| 【後期】 24～27回目 | 出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する④(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。 |
| 【後期】 28～31回目 | 出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する⑤(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。 |
| 【後期】 32～35回目 | 出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する⑥(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。 |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。 |
| 評価方法 | S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解 / コミュニケーション」の4項目の到達度を総合的に評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整や撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。 |
| 備考 | 適時プリント資料配布。 |

専門学校ESPエンタテインメント福岡

| 授業科目名 | PAオペレートⅡ | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 選択 |
|--|---|-------|-------------|-------|-----|
| | 学則別表上表記 | PAⅡ | 年次 | 2年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置学科コース | ■音楽芸能スタッフ科Ⅱ部 PAコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 | | 該当 ■ | 非該当 □ | |
| 担当講師 実務経歴 | 福岡のレコーディングスタジオにおいて約20年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。 □ | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| <p>①ライブホールEMYに於けるデジタル音響システムの理解と適切な使用方法を学び、その時々合ったセッティングを実践する。</p> <p>②デジタルミキサー(YAMAHA CL5・DiGiCo SD7)の使い方・ラインアレイスピーカー(VTX V20 S25)・モニタースピーカー(STX812・VTX M20)の特性を学び、ライブホールでの音作り・チューニングを理解します。その他、様々なマイクロフォンを使用し各特性を学んでいく。</p> | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <p>・デジタルミキサー(DiGiCo SD7・YAMAHA CL5)を使用する際のハウスオペレート・モニターオペレートができるよう、各ミキサーの特徴・セットアップ方法の違い、ステージボックス(SD RACK・Rio)のセッティングが出来るよう学んでいく。</p> <p>・ラインアレイスピーカー・2-wayステージモニターの特徴を理解し、各スピーカーに対応したセットアップ・チューニングができるように学ぶ。</p> <p>・実際のアーティストを交えてのFOH ConsoleをCL5・Monitor ConsoleをQL1(序盤)→FOH ConsoleをSD7・Monitor ConsoleをCL5(中盤～終盤)にて実習を行い、仕込み・チューニング・音作りの基礎を習得する。</p> <p>・各々がどのポジションに就いても適切な対応、指示が出来るよう色々なシチュエーションを想定・実施し対応力をつける。</p> | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | ライブホールの音響システムの電源の入れ方・順番。 FOH・Monitorの分岐の説明/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 |
| 【前期】 5～8回目 | チーム分け/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 iPadを使った回線チェック・チューニング/アーティストを入れての実習① |
| 【前期】 9～12回目 | FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング/アーティストを入れての実習② |
| 【前期】 13～16回目 | SD7のインプットパッチ・アウトプットパッチ・HA・AUXの説明。 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:FOH Console CL5・Monitor Console QL1を使用する際のセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。 |
| 【後期】 20～23回目 | SD7のセッションストラクチャー・Snapshot・GEQインサート。 |
| 【後期】 24～27回目 | SD7のfxインサート・マトリクス送り・Comp・Gateの説明。 |
| 【後期】 28～31回目 | FOH Console SD7・Monitor Console CL5での仕込み～セッティング～チューニング/アーティストを入れての実習①～② |
| 【後期】 32～35回目 | SD7のPinknoise・REC送りの説明。 チームを分けてのセッティング。 |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:FOH Console SD7・Monitor Console CL5を使用する際のセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。 |
| 評価方法 | S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。 |
| 学生へのメッセージ | アナログミキサーからデジタルミキサーへの移行による、1年生で学んだ事の応用が増えてきます。便利さもあり難しさもありますが、新しく触れる機材と楽しく学び、様々なミキサーを使用する際のハウスオペレーション・モニターオペレーション及び各ステージでの的確なセッティングを目指します。 |
| 備考 | 適時プリント資料配布 |